

■ 交通のご案内

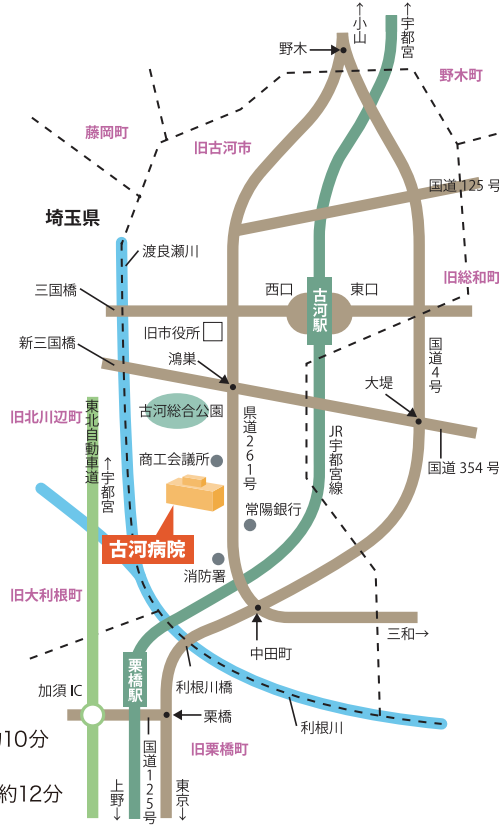


○ お車の場合

- 東北自動車道 加須ICより約25分

○ 電車の場合

- JR宇都宮線 古河駅西口よりタクシーで約10分
※古河駅西口より巡回バス運行
- 東武日光線 新古河駅西口よりタクシーで約12分
※新古河駅西口より巡回バス運行



■ フロアのご案内

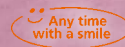
- 6F ... 通所リハビリセンター、ドック・健診センター、栄養科
- 5F ... 東:一般急性期病棟(48床)、西:一般急性期病棟(48床)
- 4F ... 医療型療養病棟(54床)、リハビリセンター
- 3F ... 東:一般急性期病棟(54床)、西:回復期リハビリテーション病棟(30床)
- 2F ... 婦人科、手術室、心臓カテーテルセンター、透析センター、臨床試験センター、管理部門、ME機器中央管理室
- 1F ... 内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、歯科口腔外科、MRI室、CT室、マンモグラフィ室、X-TV室、中央検査室、生理検査室、脳波室、薬局、内視鏡室、救急処置室、相談室、売店、医事課受付・会計

医療法人 茨城愛心会 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣1555 FAX.0280-47-0050 E-mail soumu@kogahosp.jp

古河病院 TEL.0280-47-1010 URL <http://www.kogahosp.jp>

医療法人 茨城愛心会

古河病院 循環器科



救える命をもっともっと増やすために 古河病院と地域が一体となった 「チーム医療」の実現をめざします。

古河病院の理念は、「生命を安心して預けられる病院」です。この理念を実践するために私をもっとも大事にしていることはチーム医療です。患者さまは医師だけでは救えません。看護師をはじめとする古河病院の全職員の力が一致団結することで、患者さまを救うことができるのです。チーム医療を円滑に行うために私は、「お互いの尊重(仲良く)」「話をすること」「意見を聞くこと」「自身の反省」「笑顔」「元気」を常に心がけているつもりです。

チーム医療ができれば、患者さまにとって「かかってよかったと思える病院」に、職員にとっては「働いてよかった病院」になると考えております。

大病院でしばしば問題になるのが、縦割り体制による診療科のたらい回しです。しかし当院ではメディカルスタッフが連携し、患者さまが困らない医療現場を実現しています。私は循環器科ですが、心臓や血管だけでなく、内科の領域をすべて診ます。治療中の病気以外の、他の病気にかからないよう気を配ります。そして他の専門科の判断が必要なときは、丸投げではなく他の専門医と綿密にコミュニケーションを図りながら診断・治療を行います。これもチーム医療のひとつです。

私のライフワークは「心肺蘇生の普及」です。心肺蘇生もまた、チーム医療が不可欠です。街にはAEDが普及してきましたが、まだ心肺蘇生法は十分に浸透しているとはいえません。心肺蘇生法がもっと普及すれば、救える命がもっと増えるでしょう。「私たちにはまだ救える命がある」を心に、「地域でチーム医療」を実現したいと考えています。それは、古河病院内はもちろん、地域でご開業されております先生方、救急隊なども含めたチーム医療です。その一環で当院では「断らない医療」を実践し、救急車の受け入れに注力しています。救急患者さまがもっとも求めているのは、一秒でも早い治療なのです。皆さまの命を守るために、今後とも邁進して参ります。



循環器科 副院長

高橋 暁行

慶応義塾大学医学部卒業

- 日本循環器学会認定循環器専門医
- 日本内科学会認定内科医・指導医
- 日本プライマリ・ケア連合学会認定医
- 日本心血管インターベンション治療学会認定医
- 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医・指導医
- 日本内科学会JMECCディレクター
- 救命医学会ICLSディレクター
- アメリカ心臓病学会
AHA BLS&ACLSインストラクター

心臓カテーテル治療

■ 設備紹介

Allura Xper FD10/10

狭心症の原因となる冠動脈の「つまり」を、迅速かつ効率的に、また、安全に発見することを目的として、心臓領域のトップブランドであるフィリップス社が開発した最新鋭の装置「Allura Xper FD10/10」を導入しています。可能な限り低い線量で被写体を透過させるため、患者の被曝量を大幅に低減することができます。また、従来のものよりも優れた画質が得られ、術者のワークフローと手技に合わせて、すべての設定やプロトコルをカスタマイズすることが可能です。

■ 検査方法

患者さんの足の付け根にある動脈から、カテーテルという直径2mm程度の細い管を心臓まで挿入します(他の動脈から入れることもあります)。X線造影剤を注入して冠状動脈の撮影をし、狭窄があるかなど形や動きの異常を調べたり、心臓内の圧や血液の酸素濃度を測定・分析します。

■ 治療方法

冠動脈狭窄の治療方法はいくつかありますが、代表的な方法は、カテーテルの先につけたバルーン(風船)をふくらませて血管の狭窄部分を広げるPTCAや、バルーンで血管を広げた後にステント(金網状の筒)を置くステント治療などです。



■ 診療のご案内 受付時間：午前8:30~12:00

月	火	水	木	金
9:00 ~12:30	9:00 ~12:30	9:00 ~12:30	—	9:00 ~12:30

専門医が語る

当科の取り組み

心臓と血管に関する病気の治療と予防を行います

循環器科とは、心臓と血管を扱う科です。生活習慣病から狭心症、心筋梗塞、動脈硬化、弁膜症、心筋炎等心不全の原因疾患まで診療内容は多岐にわたります。重大な心臓疾患の方がかかる診療科というイメージがあるかと思いますが、そうした深刻な病気を治療するとともに、「予防する」ことも循環器科の大きな役割です。



心臓カテーテル検査・治療も行っています

循環器科での検査方法は、血圧測定、採血して各数値を調べる、心電図、エコーなどさまざまです。最新鋭の機器を導入し、心臓カテーテル検査も行っています。冠動脈の狭くなった部分にカテーテル(細い管)を入れ、ステント(網目状金属筒)やバルーン(風船)で血管を拡張する、カテーテル治療も行っています。



異常を感じたらすぐに受診してください

胸が苦しい、動悸がする、息切れするようになった、足がむくむ・痛む…などの異常を感じたら、迷わず循環器科を受診しましょう。心臓が原因で足がむくんだり痛みを感じたりすることもありますから。「少し症状が軽くなったら病院で診てもらおう」と後回しにするのではなく、なるべく症状がある時に受診してください。そうすれば異常の原因特定と治療が、よりスムーズに行えます。受診されたらまず、異常の原因特定を行うわけですが、基本的に問診～検査という流れで行います。とくに重要なのが問診で、心臓疾患の場合、約5割が問診で診断できます。異常がいつから続いているか、繰り返されるのか、何時間続くのか、突然起こるのか、だんだん悪くなるのかなど、患者さまご自身が症状を客観的に把握しておくといいでしょう。

24時間365日体制で患者さまの命を守ります

循環器疾患は急に症状が悪化する可能性があります。「おかしいな」と感じたらすぐに受診できるよう、当院では外来時間外でも夜間や休日も含め、24時間対応しています。また循環器科では、心臓に不安を抱える方を対象に、患者さまの心電図を24時間365日遠隔チェックする取り組みも行っています。救急外来や入院中の患者さまの心電図を、ICT(情報通信技術)を利用してタブレットなどでも即時確認できる体制を整え、急な変化にも素早く対応します。もちろん、検査から治療まで医師が一人で行うのではなく、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学士、他科の医師など、すべての病院スタッフがチームワークで取り組みます。地域の方々の命をチーム医療で守るのが、古河病院の循環器科の使命なのです。

地域で一番の医療チームであるために

心臓と血管は、その症状に気づきにくく、急を要し、命に関わる診療を行っている循環器科。通常の外来、紹介、予約、緊急と、さまざまな状況に対応し、診察、検査、治療・手術を、迅速かつ的確に行うためには各分野のエキスパートが連携したチームワークが不可欠です。ドクターを中心としたメンバー全員が、互いの専門分野を尊重しつつ、全体を知り、患者さまの健康を思いやる、それが、私たちチームの姿です。

患者さまと向き合うのも、最初が大切です

どのような症状でも、患者さまが最初に向きあうのは看護師です。診療前に、問診・血圧・血糖値などから患者さまの状態を把握し、専門分野のスタッフと連携しながら適切な対応を行う事が大切です。特に循環器系の患者さまの、急を要する診療の場合はお待たせする訳にはいきません。そのために日々、待合室に立ち、患者さまの様子をよく見ている事を心がけています。

看護管理師長 藤村 宏江



患者さまの気持ちを理解し、不安を軽減します



心臓は命に直結した一番大切な臓器。それだけに心臓カテーテル病棟に入院される患者さまの気持ちは不安になっています。専門分野のスタッフとの情報交換を密接にして、患者さまの気持ちに寄り添いながら、手術の流れをご説明し、先生や手術に携わるスタッフ皆んなで勇気づけていきます。治療・手術中のカテーテル室で看護師は患者さまを気遣う事に専念できるのもチーム医療ならではの姿です。

5階東病棟師長 鉄炮塚 美紀

命と向き合うチームの一員として、自分ができる事を

カテーテル検査は時間との争い。造影剤の扱いは、患者さまの生命に関わる慎重さを極めます。常にダブルチェックで万全の準備をしてドクターの意図を読み、最適な画像を表示できるよう努力しています。

診療放射線技師 林 達也



スムーズなカテーテル手術を介助するのが役目です



手術室では、ドクターの横で患者さまが横たわる装置の角度や放射線の照射位置を調整しています。手術中のサポートは、ドクターが次に何をやるかを知ることが重要で、チームのコミュニケーションが非常に大切になります。

臨床工学技士 出井 早苗

心電図の重要性を知り、専門臨床検査士の資格も取得

生理機能検査担当として超音波・心電図やABIで血管の硬さなどを通して循環系の状態を検査しています。一般には同じように見える心電図ですが、実は患者さまの様々な状態が読み取れるもの。気づいた情報は即時ドクターに伝え、診療をサポートする事が喜びです。

臨床検査技師 三村 那実



チーム全体を把握し、役割を明確にするカンファレンス



初診で患者さまの服薬履歴を調べ、アレルギーチェック等を電子カルテで管理。入院時には服薬指導も行います。スムーズなカテーテル治療・手術のためにはチーム全体の考えを知り、手術室内の薬品の管理・配置をすることも重要です。

薬局長 酒井 郁子

全ては患者さんの社会復帰のために

リハビリは動かしづらくなった身体を動かしやすくするだけではなく、患者さまの生活を考えて行い退院へつなげること。身体の状態に合わせたリハビリを行い、患者さまの生活に寄り添っています。

リハビリテーション科技士長 廣嶋 俊秀

